

令和 8 年 9 月 26 日
目黒区立中根小学校
午前 9 時 00 分から

令和 8 年度 第 2 回学校運営協議会

《次 第》

1. 会開催に当たり
 - ・新規コーディネーター紹介
2. 報告・連絡
 - ・保護者による読み聞かせ活動
 - ・学生による夏季学習補充時間
 - ・中根小安全ボランティア隊について
 - ・家庭学習における保護者向け動画資料について
3. 協議
 - ・学校運営に関する評価項目について
 - ・教職員の任用に関する意見の申出について
 - ・私費会計額の推移
4. その他
 - ・次回の予定 令和 9 年 2 月 2 1 日（土） 9：00～

《配布資料》

- (1) 令和 8 年度 保護者・地域ボランティアによる読み聞かせ
- (2) 地域大学生による夏季学習補充時間について
- (3) 東京科学大学 ロボコンツアー・データサイエンス・プログラミング
- (4) 中根小安全ボランティア隊の発足及び加入について
- (5) 目黒区地域安全パトロール団体加入申込書
- (6) 保護者向け動画資料一覧
- (7) 家庭学習の理解啓発の事例
- (8) 令和 8 年度 学校評価アンケート一覧
- (9) 文部科学省指定研究開発学校（R6-R8）の取組
- (10) 私費会計額の推移

令和 8 年度 学校運営協議会 委員名簿

【学校運営協議会委員】

No.	氏 名	委員構成規則
1	栗山 直子 様	学識経験者(大学教員)
2	山宮 順子 様	区域居住者(中根住区常任委員)
3	北本 美菜 様	区域居住者(中根住区常任委員) (地域コーディネーター)
4	上坂 麻里 様	区域居住者(元 PTA 役員)
5	鈴木 啓充 様	PTA 関係者(PTA 会長)
6	遠藤 みづほ 様	PTA 関係者
7	水村 祥江 様	区域居住者(元 PTA 役員) (地域コーディネーター)

【事務局】

1	保刈 栄紀	校 長
2	白井 誠	副校長

会長代理：これより第 2 回中根小学校学校運営協議会を開催いたします。報告連絡について、4 点、学校よりお願いいたします。

校長：はい。それではまず初めに、1 点目の保護者による読み聞かせ活動についてです。副校長より報告させていただきます。

副校長：それでは、保護者による読み聞かせ活動についてご報告いたします。お手元の資料の 1 頁目、「保護者・地域ボランティアによる読み聞かせ」をご覧ください。本活動は昨年度、実験的な取組として開始いたしました。子どもたちから好評であったことから、今年度は継続して実施しております。今年度は、水村さんをはじめ 8 名の保護者の皆様にご協力いただいています。同資料の下の方内をご覧ください。新たに目黒区高齢福祉課よりご紹介いただきました、読み聞かせボランティア団体「りぶりんと・目黒りあん」の皆様にもご支援いただくことになりました。その中でも、中根小学区にお住まいの荒金さんにご協力いただき、活動を進めております。予算の兼ね合いで 20 回できるので、6 月から開始し、10 月までを予定しているところです。対象学年については、発達段階を考慮し、これまでの 1 年生から 3 年生に加え、4 年生まで拡大して実施しております。以上、読み聞かせ活動についての報告です。

会長代理：ありがとうございます。ただいまの説明について、ご意見やご質問等ございませうでしょうか。もしよろしければ、担当のコーディネーターの方で、活動している中で感じたことなど、お話しいただければと思います。

委員：私は昨年のボランティア募集のときに参加させていただいて、今年度もあるということだったので、引き続き参加させていただいています。今年は 4 年生までと学年が広がって、私もそこまで大きなお子さんたちに絵本のようなものを読み聞かせるさがあるがあまりなかったので、本選に少し苦労しました。ただ、読んでみたら 4 年生も結構楽しんでくれました。自分自身の世界も広がるような感じがあって、とても楽しくできたのがありがたかったです。他のボランティアの方々がどのようになさっているのかもすごく興味があります。また、そういったこともできるようになってきたらいいなと思っています。

会長代理：ありがとうございます。2 番目の地域大学生による夏季学習補充時間について、ご説明をお願いいたします。

副校長：お手元の資料の 2 頁目、「地域大学生による夏季学習補充時間について」をご覧ください。こちらは、栗山先生のご尽力により、地域にある東京科学大学との協働により実現しました。7 月と 8 月にそれぞれ 3 日間ずつ、計 6 日間実施し、希望する全学年の児童を対象に学習補充を行いました。参加人数は延べ 298 名となり、多くの児童が夏季休業中も継続して学習に取り組むことができました。栗山先生をはじめとして大学院生の皆さんには、児童一人一人に寄り添いながら丁寧に学習支援を行っていただき、児童も安心して学習に取り組むことができました。続いて、資料の 3 頁をご覧ください。栗山先生をはじめ大学院生の皆さんのご提案とご尽力により、学習

補充終了後にはデータサイエンスやプログラミングのワークショップを実施しました。また、東京科学大学大岡山キャンパスでのロボコン見学ツアーには、延べ 52 名の児童が参加しました。児童にとっては、普段の授業では触れることの少ない先端的な学びに親しむ貴重な機会となりました。資料を 1 枚おめくり下さい。栗山先生より学び方に関する児童、保護者向けの資料もご提供下さりました。以上、地域大学生による夏季学習補充時間についての報告です。

会長代理：ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。思ったより参加人数が多かったんですね。学年も比較的、全学年集まった感じですね。

副校長：そうですね。低学年、中学年が多かったです。高学年も来てくれました。

会長代理：このまま続けられるといいなと思いました。ありがとうございました。3 点目は「中根小安全ボランティア隊」について、説明をお願いします。

副校長：資料 7 頁の「中根小安全ボランティア隊の発足及び加入について」をご覧ください。こちらは、地域の方からのご意見を参考にしたものです。登下校時に子どもたちへ挨拶をしたいものの、不審者と間違えられないかという懸念があり、声を掛けにくいというお話がありました。そこで、目黒区危機管理部生活安全課の取組と連携を図り、安全ボランティアであることが分かる形にしたものです。募集にあたっては、中根住区の皆様のご協力により、住区だよりに募集案内を掲載していただきました。また、町会や住区センター等にも、資料の 10 頁にあります、ポスターを掲示していただくなど、地域の皆様に広く周知していただきました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。当初は、資料 8 頁にあります防犯ベストの着用を予定しておりましたが、より活動しやすい形にするため、地域の皆様のご意見を踏まえ、現在は腕章を着用して活動していただいております。その結果、資料 12 頁にございます通り、北本さんを代表として 8 名の地域の方にご登録いただき、登下校時の見守り活動にご協力いただいております。また、学校でも前期前半終了時の全校朝会において、安全ボランティア隊について児童に紹介いたしました。腕章を着用している方は、地域で子どもたちを見守ってくださっているボランティアの方であることを伝え、「見かけたらしっかりあいさつをしましょう」と呼びかけたところです。以上、中根小安全ボランティア隊についての報告です。

会長代理：ありがとうございます。ただ今の説明にご意見などございますか。

委員：ボランティアは、できるときにできる人がしています。マストではありません。

校長：学校でもボランティア隊の活動実態がまだ十分見えていないところがあって、この間、副校長が校内放送をして、子どもたちから情報収集しました。

副校長：はい。薬局前や学校の南側にいらっしゃったということをいろいろな学年の子どもたちが教えてくれました。

委員：9 月中に活動して下さった方々を対象にアンケートをお願いしました。皆さんに、1 か月間、できるときに活動していただいた中での気づきなどを書いていただいたも

のです。回答をくださったのは4名でした。不定期ながら、それぞれ活動してくださっていることが分かりました。私は、その方が無理なく、本当にご好意で活動していただけていることが分かったので、とてもありがたく思いました。皆さんがいろいろな気付きを寄せてくださっていて、反応や関わりなどでまとめてあります。学校へ行き渋っているお子さんと保護者のやり取りを見ていて、夏休み明けにお父さんたちが一生懸命送り出している様子を見て、とても胸が熱くなりました。地域愛が育まれているというか、かつて子育てをされていた方々がご協力くださっているのです、そういった部分でも少しずつ心の交流が始まっているのではないかと感じています。このまま皆さんと無理のない範囲で、地域がつながっていければと思っております。よろしくをお願いします。

会長代理：ありがとうございます。それでは続きまして4点目、「家庭学習における保護者向け動画資料」について、説明をお願いします。

副校長：資料13頁の「家庭学習における保護者向け動画資料について」をご覧ください。学校と家庭が共通の理解のもとで子どもたちの学びを支えるために、大学の先生に自己調整学習をテーマとした動画を作成いただきました。1本目は、学校だより6月号で紹介した動画で、横浜国立大学の鈴木先生にご協力いただき、「家庭学習における自己調整」をテーマに作成していただきました。家庭における自己調整力の育成や、保護者の関わり方について分かりやすく解説していただいております。また、2本目は学校だより10月号で紹介を予定している動画で、東京未来大学モチベーション行動科学部の小林先生にご協力いただきました。「自己調整学習を支える動機づけ ～子どものやる気をサポートするヒント～」をテーマに、子どもの学習意欲を支えるための具体的な考え方や関わり方についてお話していただいております。資料14頁をご覧ください。児童の家庭学習のノートの好事例をホーム&スクールでの配信や教室掲示をして、家庭学習への理解促進を図っています。今後も、家庭との連携を大切に、児童の主体的な学びや学習習慣の定着につながる取組を進めてまいります。

会長代理：ありがとうございます。ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

校長：これは心理学を専門とする大学の先生方へ依頼し、10分程度の動画資料を作成していただいているものです。今年度中にもう1本動画を作成していただければと考えております。本日は欠席されていますが、栗山先生にも心理学がご専門であるかと思いますので、先ほど紹介があった学習方略に関する資料をもとに、動画も作成していただけたらと提案させて頂きたいと考えております。また、家庭学習については、前回の会議の際にもご意見頂きまして、14頁、15頁にございますとおり、家庭への啓発資料を適宜示しております。例えば1年生では家庭学習ノートを活用し、計画を立てて振り返りを行ったものをノートに貼らせたりしています。2年生ではホーム&スクールを活用し、このような好事例を紹介しています。3,4年生では、教室に掲示して、子どもたちが互いの取組を見ながら、「なるほど、まねしてみよう」と思えるよ

うにしています。高学年では、「け・て・ぶ・れ」という形で、計画・テスト・分析・練習を意識しながら取り組む事例を教室に掲示しています。こうした形で家庭学習を少しずつ根付かせ、自主的に取り組めるようにしていきたいと思います。

会長代理：説明について、ご意見はございますでしょうか。

委員：質問ではなく感想ですが、とてもいい取組だと思っております。私は個人的に、中根住区で中根小の皆さんと一緒に宿題をするボランティアを行っています。今年の夏、低学年の保護者の方から、「宿題が出ていないので、どう進めたらよいか分からない」という相談がありました。しかし学校の方で、このように家庭学習や自己調整力が大切であるということを示していただき、子どもの自発的な学習の位置付けについて、保護者の方々にもきちんとしたイメージを提示していただいていると思います。これからの子どもたちは、現在ある答えを覚えるだけではなく、そこから派生する問いに向き合うことが求められる時代になると思います。この取組をやめずに続けていただきたいと思います。

会長代理：ありがとうございます。

校長：ありがとうございます。家庭学習について学校がサポートできることとして、この取組を進めていきますが、やはり「ドリル学習こそが宿題である」という考え方は根深く、家庭での学習も学校が管理するものという誤った認識の方が、一定数いらっしゃいます。ドリル学習も短期的に見れば価値があると思いますが、継続して学ぶ力を育てていくことは、小学校段階だけではなく、中学校、高校、大人になってからも必要だと思います。そういう力を今からしっかり身に付けていく必要がありますので、このような形で家庭学習として提案させて頂き、サポートしていきたいと考えております。

委員：娘の近隣の小学校の話を知ると、「今年からまたドリルが復活した」という話を聞いて、ちょっとうらやましいと思ってしまったりします。やはり今何をやっていて、次に何をやるのかという進み具合が見えなくて、不安ではあります。ただ、自分で学ぼうとする力については、この夏休み前くらいまで、4月から7月にかけて、だんだん自分で「あれを調べている」「これを調べている」というように考える習慣はついてきたのかなと思います。しかし、算数などになると、自主学習だけではなかなかカバーしきれない部分があるのではないかと感じています。急にコンパスが出てきて、「うちの子、コンパスの使い方が分かっていないな」ということもありました。授業がどういう順番で進んでいるのかが見えないのは、少し不安ではありました。

校長：実際にそのようなご意見もいただいております。そのため学校としては、家庭学習をサポートするために、このような取組を進めることと同時に、本来、学校では修得的ではなく履修的に学習しておりますが、授業の中で子どもたちの状況を見取り、単元ごとのテストを行い、できていないところについては木曜日の午後に60分間設定している学習補充時間で個別に指導できるようにしております。また、ドリルを全くや

っていないわけではなく、タブレットに入っているドリルや ICT 学習ソフトも活用できるようにしています。その進捗が可視化されるようになっていて、どの単元ができていて、どの単元ができていないのか、どの領域に課題があるのかということが分かるようになっていきます。そういったものも活用しながら、自分がどこを理解できていないのかを把握していくことが大切だと思っています。

委員：タブレットだと、子どもがどれくらいやっているのかを親が見られないというところがあります。ドリルであれば、子どもが寝た後に親が見て確認することができますが、タブレットはなかなか親だけで開いて確認することができません。

校長：ICT 学習ソフトの進捗も保護者が把握しておきたいということですね。子どもに「見せて」と言わないと状況が分からないということですね。

委員：うちの子は民間のタブレット型学習教材をやっているのですが、進捗が保護者にメールで来るんですよ。もしそういうことがシステムのできれば、子どもがドリルをやっているかどうかは分かると思います。ただ、やったからといって力が付いているかどうかはまた別ですけども。話は変わりますが、昨日「すぐー」で家庭学習の事例をいただいたのですが、保護者としても、他のお子さんがこういうふうに行っているんだということが見えると、自分たちの知識の引き出しも増えてきます。そういう発信を繰り返していくことも必要だと思います。ただ、全体の進捗の中で、自分の子が本来ここまでできなければいけないことができているのかどうかは、なかなか分からないですね。

校長：現在も、1 学期・2 学期という学期単位では単元ごとの結果をお伝えしているのですが、もう少し短いスパンで知りたいというご意見ですね。

委員：あと、学級によって先生のやり方で違いがあるように感じるのが少し気になりました。

校長：家庭学習でこれをやりましょうという感じで、宿題のような形で出てくる学級とそうでない学級ということですか。

委員：そうです。

校長：家庭での学習は、学校では管理しておりませんが、もし学級によって、現在本校が自己調整力の育成を目的とした取組の一つとしている家庭学習のサポート方法についての説明や取組に違いがあるのであれば、それは学校としての課題だと思いますので、教員間でしっかり共通理解を図っていきたいと思います。ありがとうございます。

委員：宿題というか、家庭学習のイメージがあまりよく分かっていないのですが、宿題というのはいらないのですか。

校長：学習すべきことは常にあります。それを与えられてやるのか、自分で見つけてやるのかという違いです。そして、学習の内容は問わず、その子供の問いに対してどう向き合うかということです。例えば、塾の宿題をやったという子ももちろんいます。興味・関心に合わせて教科学習ではないことについて調べている子もいます。家庭での学習内容については、学校が管理をしていないので学校から問うことはしません。しか

し、常に自分の学校での学習状況を把握できるように、家庭学習用のノートにはその単元のテスト結果を貼らせて、状況が分かるようにしています。例えば、国語のこの単元の漢字ができていなかったという結果がノートに貼ってあるのに、それを無視してそれ以外のことを家庭学習でやるのかというと、ちょっと違う。そこに対してのサポートを教師がするということについては共通理解をしています。ですから、「ノートに貼って、自分でテストの結果も記入したんでしょ。それなのに、なんでこれについてのアクションや計画、分析がなされていないんですか」と子どもに問い返すことは必要だと思っています。宿題がないから楽ができると思ってしまうということになると、誰もが同じように漢字ドリルを10回ずつ書いてこいという宿題に戻ってしまうわけですが、それが必要な子もいれば、必要ない子もいるわけです。ですから、家庭での学習の問題を学校が介入して宿題を出すということはしていません。

委員：パーソナライズされた課題ということですね。

校長：先生方にも過去の経験に基づき、いろいろな考え方があります。ですから、先ほどおっしゃられたように、担任によって少し様子が違うということがあるかもしれません。以前のように宿題を一律に与えれば、言ってしまうえば簡単なんですよね。しかし、それって本当にその子の学習にとっていいのかというと違うんじゃないか。宿題を出してやらせて、「やった」という結果があれば、先生も保護者の方も安心するんです。しかし、それでいいのかというところを考えて家庭学習という形でサポートさせて頂いています。

委員：その本来やるべきところが抜けたまま、違うことをやっているような気がしてしまうことがあります。例えば、この漢字をやらなきゃいけないのに、「漢字は何となくできているかな」くらいの曖昧な理解で、違うことをやってしまう。家庭学習が少しとっ散らかっているような感じを受けてしまうんです。

校長：やらなければならないことは、本当にたくさんあります。また、学校では修得的ではなく履修的に学習していますが、本取組における学習方法は定着するまでに時間がかかります。こうして様々なご意見をいただけるのは大変ありがたいです。ありがとうございます。

会長代理：それでは、本日の議題の1点目に入ります。「学校運営に関する評価項目」について、校長先生から説明をお願いします。

校長：新規の議題になります。毎年学校評価を行っておりますが、今年度の案として、資料17頁にありますとおり、学校運営に関する評価項目をお示ししております。昨年度との比較をしたいので、共通項目から外れたものも独自項目として残し、昨年度と同じ項目でアンケートを実施したいと考えております。時期は例年どおりで、運動会終了後から2週間程度を予定しております。ホーム&スクールから「すぐる」へアプリが変更になり、地域の方々への周知が届きにくくなった面もありますので、特に地域の皆様には改めて周知しながら進めてまいりたいと考えております。以上です。

会長代理：ありがとうございます。アンケート項目が少なすぎると分析しにくいのかなとも思います。ある程度、項目数はあった方がよいと思います。今回、学校として残す判断をされたのはよかったのではないかと思います。

校長：ありがとうございます。次回はアンケート結果もご覧いただければと思います。

会長代理：それでは、議題の２点目に入ります。「教職員の任用に関する意見の申出」について、校長先生から説明をお願いします。

校長：18 頁をご覧ください。目黒区は文部科学省の指定を受け、研究開発学校として後期 3 年間、令和 6 年度から令和 8 年度まで取り組んでいるところです。その中で、取組内容は大きく 3 つに分かれておりまして、「学びの質の向上」「生活の質の向上」「教員のための時間」となっております。学びについては、自己選択学習の時間で、本を使って調べエッセイにまとめる活動、学校図書館の施設充実、中根の学習に基づく授業改善などに取り組んでおります。生活については、家庭学習を通して自己調整力を身に付けることや、木曜日の学習補充時間を活用した指導の充実を図っています。また、総合的な学習の時間において体験的な学習を夏季休業中に実施したり、地域図書館へ全学年が訪問したりといった取組も行っています。教員のための時間については、全教員の時間外勤務時間を月 45 時間以内にするを毎月達成することを目標としております。これらが後期 3 年間の取組内容ですが、その進捗についてご報告いたします。まず第一に、教員が放課後の時間をどのように活用しているかです。月 45 時間以内の達成を目標にするとともに教育課程の精選も図っておりますので、放課後の時間に少しゆとりが出てきています。その中で何に時間を使っているかアンケートを取ったところ、教材研究や授業準備、プリント印刷、公務分掌の会議、事務作業、教員同士のコミュニケーション、支援員やスクールカウンセラーとの情報共有、教室環境の整備などに時間を活用しているという回答が多くありました。第二に、実際の 45 時間以内の達成状況ですが、令和 6 年度は 45 時間を超える教員が一定数いました。しかし昨年度から今年 8 月までについては、45 時間を超える教員は 1 人もおらず、働き方改革が進んでいます。このように教員が月 45 時間以内で勤務を終えると、「先生方が楽をして、子どもの学力が下がるのではないか」というご意見もあります。そこで令和 6 年度と令和 7 年度のカラーテストの結果を各学年で同一集団の比較をしました。6 年生、4 年生、3 年生では有意に上昇していました。一方で、5 年生と 2 年生は有意に下がっている教科もあります。このことから、教員が 45 時間以内で勤務を終えたから、学力が下がるということではないことが分かります。下がっている学年教科もありますので、要因は別にあると考えられます。第三に、今後の展開についてです。次期学習指導要領はおおよそ 10 年に 1 度改訂されますが、2030 年頃の実施に向けて検討が進められています。総合的な学習の時間は総合的な探究の時間という名称になり、その中でプログラミング教育を含む情報領域を週 1 時間程度行うことが検討されています。本校は東京科学大学に近接しており、理数教育

を充実させたいと考えています。例えばプログラミング教育を含めた STEM 教育の推進や、理科学習を発展させた探究学習などです。そのためには大学との連携を教育活動に効果的に結び付けることのできる理数教育に専門性を有する教員の配置が必要です。そうした教員は児童への指導だけでなく、教員の授業改善や校内研修の推進役としても重要な役割を担います。しかし、本校の現状は、理数系の教員免許を有する教員は現在 1 名のみで、全体の約 5 パーセントです。これは少なすぎると考えています。そこで、コミュニティ・スクール制度にあります「教職員の任用に関する意見の申出」の制度を活用し、理数系教員の配置を要望したいと考えております。1 枚おめくりいただきますと、教育委員会の手引きを掲載しています。特定の校長や教員の異動について要望することはできませんが、「ICT 機器活用促進のために高い技能をもった教員を配置してほしい」といった要望は可能となっています。さらに 1 枚おめくりいただきますと、学校運営協議会会長名で提出する案を作成しております。案を読み上げさせていただきます。

「本校は今年度よりコミュニティ・スクールとして認定を受け、地域とともにある学校づくりを推進している。学区内には東京科学大学が立地しており、これまでも児童の大学見学、大学教員や大学院生による出前授業、大学生による学習支援など、大学との連携を積極的に進めてきた。さらに今年度は、大学からの提案を受け、夏季休業期間中に学習補充教室を実施し、大学生が児童の学習支援に携わるなど、地域の教育資源を活用した取組を充実させている。

一方で、次期学習指導要領では、探究的な学びの充実や情報教育の強化が示されている。本校としても、東京科学大学との連携を生かし、プログラミング教育を含む STEM 教育や理科の学習内容を発展させた探究学習を推進し、科学的な思考力や課題解決力を育成したいと考えている。

そのためには、大学との連携を教育活動へ効果的に結び付けることのできる理数教育に専門性を有する教員の配置が必要である。専門性を有する教員は、児童への指導だけでなく、教員の授業改善や校内研修の推進役としても重要な役割を担う。しかしながら、本年度、理数教育の教員免許状を有する教員の割合は 1 名のみ（全体の 5 パーセント）である。

したがって、本校学校運営協議会は、「教職員の任用に関する意見の申出」に基づき、本校の地域特性及び学校経営方針を踏まえ、理数系分野、特に理科の教員免許状を保有している教員の複数配置（2 名以上）について配慮されるよう要望するものである。」ぜひご意見をいただければと思います。以上です。

会長代理：ありがとうございます。

委員：まず、先生方の残業がなくなっているのは良かったと思っています。子どもも午前中の授業に慣れていますし、不便を感じている様子もありません。午後の時間ができることによって塾に追われることもなく、自分で時間を活用できるので良いと思います。教員

配置の希望についてですが、先日の東京科学大学とのプログラミングの取組は本当にためになりましたし、こうした機会をもっと増やしてほしいと思っています。近接校という強みがありますので、PTA としても今後いろいろなイベントで東京科学大学と連携していけたらと思っています。地域の強みとして活用できるといいと思いますので、この方針については全面的に応援したいです。ぜひ申出をしていただきたいと思います。

会長代理：理数分野の免許を持っている先生が少ないということですが、全体的にも少ないのでしょうか。

校長：東京都全体については把握していないのですが、積極的に採用しようとしている状況はあります。例えば理科に特化して採用募集をかけていることもあります。ただ、小学校教員の場合は教育学部出身が多いので、専門性という意味では理科や数学を専門的に学んできた方は少ないです。ICT の活用や算数・理科の授業力などを考えると、理数系に強い方が増えることは大きな意味があると思っています。

会長代理：ありがとうございます。今、子どもが高校に通っていて理数教育に力を入れている学校なのですが、理数系の進路を選ぶ子が少なくなっていると感じます。今の社会では AI も進んでいますし、文系でも理系的な考え方が必要になっていると思います。その意味でも理数系に強い先生がいることは大事だと思いますし、多様な専門性をもった先生方が学校にいたることが大切だと思いました。

校長：今回の学習指導要領改訂では、今まで以上に情報教育が重視されます。今後は情報領域として位置付けられるため、扱いも大きく変わります。栗山先生にもご協力いただきながら実現していけるとよいと思っています。

会長代理：教員配置もそうですし、東京科学大学との連携がもっと強くなるといいですね。中根アフタースクールでも大学生が来てくれることがあります。高学年になると子どもたちも「このお兄さんはすごいんだな」と分かるようになります。そうすると積極的に話しかけたり、一緒に活動したりするようになります。学校とは違う先生や大学生から刺激を受けることは、とても意味があると思います。こうした機会がもっと増えるとよいと思いました。ありがとうございました。

校長：ありがとうございます。もしよろしければ、この内容で申出をさせていただいてよろしいでしょうか。

委員一同：異議ありません。

会長代理：それでは、議題の 3 点目に入ります。「私費会計額の推移」について、校長先生から説明をお願いします。

校長：文部科学省から、学校における補助教材及び学用品等にかかる保護者負担の軽減策について通知が出ております。その事例が 23 頁、24 頁に掲載されているものです。本校としても今後考えていきたいと思っております。例えば、鍵盤ハーモニカや彫刻刀、リコーダーなどについて、その後も継続して活用できるものであればよいのですが、

小学校でしか使わないものであれば、卒業生から寄付していただき、再利用できないかということも検討していきたいと考えています。また、22 頁には私費会計額の推移も掲載しております。近年は物価高騰の影響もあり、特にバス代の値上がりが顕著です。この間も 5 年生と校外学習に行きましたが、1 人 4,300 円を超える費用がかかりました。保護者の皆様にもご負担いただいていることですので、こうしたことも含めて考えていく必要があると思い、本日の議題といたしました。以上です。

会長代理：ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

委員：小 P 連の方でも、学校指定品に対する支援について要望が出ています。特に中学校進学時の制服代などについての負担軽減の話があります。また、中根ファミリーフェスティバルでも毎年話題になるのが、学用品のリユースです。期間限定で使用する学用品をうまく循環させられないかという声は、保護者の皆さんからも出ています。学校としてもこうした取組を考えているのであれば、協力できるところは協力したいと思っています。ただ、過去にリユースをやっていた方に話を聞くと、使えないものまで持ち込まれてしまい、最終的な処分が大変だったという経緯もあったようです。そのため、受け入れ体制も含めて考える必要があると思います。

会長代理：私も PTA 役員のときに制服や学用品のリサイクルをやりました。ご好意で持ってきてくださるのですが、中には状態がよくないものもありました。また、何年も持っていかれず残ってしまうものもあり、管理はなかなか難しいですね。廃棄にも費用がかかりますし、受け取るときに「これはだめです」とも言いづらいので、その辺りは難しいと思います。

委員：名前や学年も書いてありますからね。

会長代理：そうなんです。そこを気にするお子さんもいるので、そのあたりも難しいですね。

委員：喫緊の課題として本当に必要なものについては、まず貸出から始めるという方法もあるかもしれません。対象を絞って運用することもできそうです。例えば 2 年生のときだけ使うものなどは、その学年が終わったタイミングで次の子へつなぐような形ですね。

校長：学校の備品として準備できるものは、そうしていくという考え方もあります。

委員：回収して学校備品にしてしまうのもよいですね。

委員：何をいつ購入するのかが、あらかじめ分かっているといいのかなと思います。例えば、1 年生では鍵盤ハーモニカ、3 年生ではリコーダー、というように入学時から分かっているれば準備もしやすいと思います。給食費も無償化されていますし、自分が使うものくらいは自分でそろえたいという気持ちもあります。

委員：捨てるくらいならリユースした方がよいと思いますし、学校備品として活用するのもありだと思います。

委員：学校側と保護者が意見交換できる場があるといいですね。これは家庭にある、これは備品でもいいのではないか、これは衛生面の問題があるから各自購入の方がいいの

ではないかなど、話し合いながら考えていけるとよいと思います。

会長代理：以上で本日の議題は終了です。皆様から何かございますか。

委員：中根アフタースクールで放課後活動を実施していますし、住区でも安心安全講座などを企画しています。ただ、土日や夜間だと参加者が少ないという課題があります。子どもがいる時間帯に学校の教室を借りて実施できればよいなと思っています。また、PTA と東京科学大学との連携を進めて、家庭教育講座のようなものや、子どもも一緒に参加できる企画ができればと思っています。放課後の実施は可能でしょうか。

校長：問題ありません。

委員：ありがとうございます。

委員：子どもの学習については、今まさに転換期だと感じています。そのため、子どもだけではなく、保護者の意識も変えていく必要があると思います。先ほど紹介のあった動画なども、定期的に発信していくことが大切だと思います。保護者が考える学習と、これから子どもたちが受ける学習との間にギャップがあるので、子どもは学習しているつもりでも、保護者にはそう見えないことがあります。年に1回ではなく、季節ごとにでも繰り返し発信していくことで、理解が深まるのではないかと思います。

委員：例えば、夏に栗山先生に来ていただいたような機会を活用して、子ども向けの講座だけでなく、その間に保護者向けの説明会を実施するのもよいかもしれませんね。

委員：そうですね。意識の高い保護者だけでなく、少しずつ広がっていくことが大事だと思います。

委員：いろいろな保護者の人から、「宿題を出してほしい」と言ってほしいと言われて来ました。書くことが少なくなってきたいて、子どもが書くことの大切さもあると思うんです。タブレットに書くだけで済んでしまっているのかなという気持ちもあります。

委員：一方で、高学年になると宿題が邪魔になっているという話を以前はよく聞きました。塾の勉強の方が先に進んでいますからね。

委員：ただ、それは結局、学校だけでは足りないから塾に行くという考え方にもつながります。学校教育だけで完結できないものかという思いもあります。

会長代理：学校教育と受験勉強は少し別のものだと思います。うちの子も中学受験を経験しましたが、塾で進んでいるから学校の宿題が簡単というわけではありません。両方進めていかなければならないのだと思います。

委員：家庭によって家庭学習への取り組み方もかなり違いますね。親の働きかけ方一つで変わる部分も大きいと感じます。

委員：まず、学習そのものが何を目指しているのかを保護者に伝えていくことが大事ですね。

委員：人間形成のためには、とても大事な考え方だと思います。ただ、基礎学力と考える力のバランスをどう取るか。漢字や計算などとの折り合いを、もう少しうまく付けられないかなと思います。

委員：そういうことも含めて、栗山先生に来ていただきながら一緒に考える場があるといい

かもしれませんね。

会長代理：私自身、家庭学習についてもっと理解していればよかったと思っています。子どもたちも高校生活の中で悩んでいます。特にコロナ禍で大事な時期を過ごした世代ですので、自分で学ぶ力や、自分が何をしたいのかを考える力が育つことは本当に大切だと思います。そのためには保護者も学ばなければいけません。今の学びについて親が理解していないと難しい部分もありますので、こうした取組が広がってほしいと思います。

委員：プログラミングや英語など、私たちの時代にはなかった学びも増えています。教育は大きく変わっていますので、保護者の価値観も変えていかないとならないと思います。

委員：ただ、そう考えるとカラーテストとの関係は少し矛盾しているようにも感じます。テストの結果をベースに家庭学習を考えていかなければいけないことに矛盾がある気がします。

委員：でも、カラーテストがなければ成果が見えませんかね。

委員：それもそうですね。

委員：これがうまくいくかどうかは、これからですね。

校長：学校としてもしっかり情報発信しながら、専門家の方からお話をいただくなどの機会を設けていきたいと思っています。

会長代理：そういう意味では、本当に恵まれた地域ですね。他の地域では、住区や学校運営協議会の活動そのものを知らないという方もいます。中根小は昔から研究校として先進的な取組を行っていますので、これからも期待しています。

会長代理：その他、ございますでしょうか。それでは以上をもちまして、第2回中根小学校学校運営協議会を終了いたします。本日はありがとうございました。

令和8年度 保護者・地域ボランティアによる読み聞かせ

目黒区立中根小学校

月	日	曜日	実施教室	題名	作者	出版社	読み聞かせ
6	30	火	1年1組	ねずみのおよめさん	小野かおる	福音館書店	水村祥江様
7	2	木	1年2組	わらしべちょうじゃ	いもとようこ	金の星社	西本 響子様
7	7	火	2年1組	はちうえは ぼくにまかせて	作：ジーン・ジオン、訳：もりひさし	ペンギン社	宮崎範子様
7	9	木	2年2組	おちやのじかんにきたとら	ジュディス・カー	童話館出版	馬場麻沙美様
7	14	火	3年1組	落語絵本 まんじゅうこわい	川端誠	クレヨンハウス	安楽香織様
7	15	水	1年1組	おばあちゃんからライオンをかくすには	作：ヘレン・ステイブンズ 訳：さくま ゆみこ	ブロンズ新社	りぷりんと目黒りあん 荒金智子様
9	1	火	3年2組	3びきのかわいいおかみ	ユージーン・トリビザス	富山房	安楽香織様
9	3	木	3年3組	うみべのなつやすみ	菅 瞭三	こどものとも	道下直子様
9	8	火	4年1組	ナージャの5つの学校	キリーロバ・ナージャ文、市原清絵	大日本図書	水村祥江様
9	9	水	2年1組	きつと どこかに	リチャード・ジョーンズ 作・絵 福本 友美子 訳	フレール館	りぷりんと目黒りあん 荒金智子様
9	10	木	4年2組	落語絵本 まんじゅうこわい	川端誠	クレヨンハウス	宮崎範子様
9	15	火	1年1組	月のみはりばん	とりごえまり作	偕成社	水村祥江様
9	17	木	1年2組	てんぐのはうちわ（日本昔ばなし）	いもとようこ	金の星社	安楽香織様
9	24	木	2年1組	未定			馬場麻沙美様
9	29	火	2年2組	未定			道下直子様
10	6	火	3年1組	未定			西本 響子様
10	8	木	3年2組	未定			飯島あいか様
10	13	火	3年3組	未定			安楽香織様
10	20	火	4年1組	未定			原田栄子様
10	22	木	4年2組	未定			植木菜美子様
10	27	火	1年1組	未定			原田栄子様
10	29	木	1年2組	未定			植木菜美子様

りぷりんと目黒りあんについて

「りぷりんと目黒りあん」の皆様は、絵本の読み聞かせ活動を通して、子ども・保護者・高齢者との交流を深め、会員の健康増進と社会貢献を目指すボランティア団体です。
 2022年3月に発足され、同年5月にNPO法人りぷりん・ネットワークへ加入されました。目黒区内で活動し、保育園、学童保育、児童館、高齢者施設などを訪問して読み聞かせを実施しています。油面・東山グループと鷹番グループを中心に活動し、地域交流会や納涼祭など各種イベントにも積極的に参加しています。会員数は55名で、総会を年1回、役員会や定例会を毎月開催し、継続的な活動体制を整えています。活動は年々拡大しており、2025年度には23施設で225回の読み聞かせを実施し、延べ約6,000人が参加しました。2026年度には目黒区の「まちづくり活動助成金交付決定団体」となり、世代間交流と地域活性化に貢献しています。

(りぷりんと目黒りあんの資料より要約)

本校では、中根小学校区にお住まいの荒金智子様に、読み聞かせ活動へご協力いただきました。

令和8年9月26日

地域大学生による夏季学習補習時間について

目黒区中根小学校

- 1 ねらい 長期休業における、児童の学習への支援として学習補充の時間を確保する。
また、学校運営協議会の活動の視点から、地域大学と連携を図り、地域学生の方の協力を
仰ぐ活動とする。
- 2 期 間 令和8年7月22日（水）、23日（木）、24日（金）＜前半＞
令和8年8月20日（木）、21日（金）、24日（月）＜後半＞
- 3 時 間 8：30 から9：30 まで
- 4 場 所 低学年 学校図書館 読書センター
中学年 家庭科室
高学年 学校図書館 学習センター
- 5 対 象 中根小学校児童 希望者 1年～6年

6 参加人数

学年	7月21日 (火)	7月22日 (水)	7月24日 (金)	8月21日 (金)	8月22日 (土)	8月24日 (月)	合計
1年生	12	10	10	7	6	7	52
2年生	10	10	7	5	7	9	48
3年生	14	18	15	16	17	16	96
4年生	9	12	11	7	8	7	54
5年生	4	4	3	3	3	4	21
6年生	3	4	5	3	7	5	27
合計	52	58	51	41	48	48	298



低学年 読書センターにて



中学年 家庭科室にて



高学年 学習センターにて

令和8年9月26日

東京科学大学 ロボコンツアー・データサイエンス・プログラミング

目黒区立中根小学校

日時・場所	内容	講師・案内	対象	参加人数
7月22日(水) 9:40～11:10 ・読書センター	データサイエンス ワークショップ	・栗山直子先生(東京科学大学) ・大学院生	1～3 年生	20名
7月23日(木) 9:40～11:10 ・読書センター	プログラミング ワークショップ	・栗山直子先生(東京科学大学) ・大学院生	4～6 年生	4名
8月20日(木) 10:00～12:00 ・東京科学大学 大岡山キャンパス	IDC ロボコン制作 見学ツアー	・栗山直子先生(東京科学大学) ・ロボコン実行委員教員 ・大学院生	夏季学 習補充 時間参 加児童	17名
8月21日(金) 9:40～11:30 ・読書センター	プログラミング ワークショップ	・草間 肇先生(東京科学大学 環 境・社会理工学院 修士1年) ・大学院生	3～6 年生	6名
8月24日(月) 9:40～11:30 ・読書センター	データサイエンス ワークショップ	・橋本龍徳先生(東京科学大学 情報理工学院 修士1年) ・鈴木 光先生(立教大学 理学部 4年) ・大学院生	3～6 年生	5名
			総合 計	52名

ワークショップの様子



ロボコン見学ツアーの様子(写真・栗山先生より)

📚がんばっているみなさんへ📚

おぼえやすくする4つの工夫 ーためしてみてね！ー

🔄 くりかえし学ぶ（リハーサル）

いちどで覚えようとしなくて、
なんども思い出したり、
問題をといたりしよう！



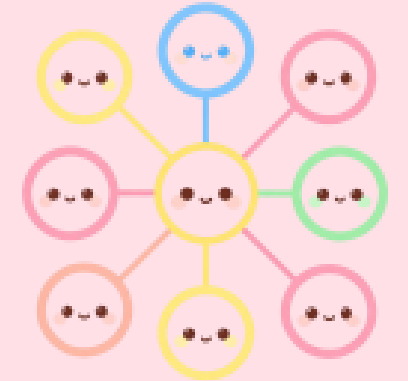
くりかえすほど、記憶にのこりやすくなるよ！

書いたり読み上げてみたり、工夫してね！

📝 セいりしておぼえる（体制化）

おぼえることを整理しよう！

- ・表や図にまとめる
- ・なかまごとに分ける
- ・関係図を書く



バラバラの知識がつながるよ！

💡 つながりを考える（精緻化）

新しく学んだことを、
よく知っていることと結びつけよう！

- ・「どうしてそうなるの？」
- ・「前にならった〇〇とおなじ？」
- ・「生活ではどんな例がある？」

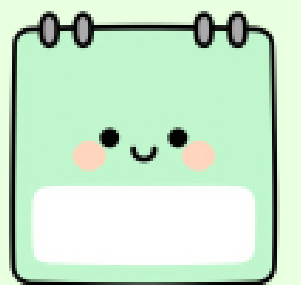


📅 少しずつ分けて学ぶ（分散学習）

まとめて勉強するより、毎日、少しずつがおすすめ！

- △ 60分を1日だけ
- ◎ 20分ずつ3日つづける

夏休みも「毎日コツコツ」がカギ！



イラストは、Canva AIで作成しました。

★ 子どもたちの頑張り

3日間、夏季学習補充時間に参加させていただき、児童のみなさんの学習の様子を見学させていただきました。

「今日はドリルを○ページやる」
「漢字検定に合格する！」
「探究学習を進める」

など、それぞれが目標を持ち、
自分から学習に取り組んでいる姿が
とても印象的でした。

「おうちの人との約束を守ろう」と
頑張っているお子さんも
多く見られました。

ぜひ、ご家庭でもその努力をたくさん
褒めてあげてください。

子どもは認められることで
「また頑張ろう」「やればできる」という
気持ち（自己効力感）が育ちます。

📖 「勉強の仕方」が 学力を伸ばします

認知心理学では、勉強の仕方のことを
「**学習方略**」といいます。

同じ時間勉強しても、やり方を少し工夫
するだけで、覚えやすくなったり、
忘れにくくなったりすることが研究で
分かっています。

お子さん向けのプリントで知識が記憶に
残りやすくする4つの学習方法を
お伝えしました。

- ① くりかえし学ぶ（リハーサル）
- ② 整理して覚える（体制化方略）
- ③ つながりを考える（精緻化方略）
- ④ 少しずつ分けて学ぶ（分散学習）

おうちでも声掛けいただけると
効果的です。

💬 こんな声掛けが効果的です

夏休みは、学力だけでなく、自分で計画
を立て、継続して学ぶ力（自己調整力）を
育てる大切な時期です。

「今日はここまで頑張ったね。」
「昨日より続けられたね。」
「自分で計画を立てられたね。」

このような声掛けが、
子どもたちのやる気や自信に
つながります。

ぜひ、お子さんの努力や工夫を認め、
たくさん褒めながら、充実した夏休みを
過ごしていただければと思います。



'26 RoBoCon

International Design Contest

主催
東京科学大学 IDC国内実行委員会

共催
東京電機大学 日立建機株式会社

後援
白星会 陽久会 目黒区教育委員会
日本精工株式会社 株式会社小松製作所 竹下製菓株式会社
ミネベアミツミ株式会社 株式会社インダ



International Design Contest

観覧費
FREE

36th
2026.8.22

観覧募集は6月末頃に
Science Tokyoニュースに掲載予定
(定員500・抽選)

2026.8.22

〔SAT〕

東京科学大学大岡山キャンパス 70周年記念講堂

OPEN 12:30 / START 13:00

contact idc-query@ac.sc.e.titech.ac.jp / 03-5734-3307

観覧募集フォーム



令和 8 年 6 月 1 日

関係各位

目黒区立中根小学校

中根小安全ボランティア隊の発足及び加入について

平素より本校の教育活動にご理解・ご協力いただきありがとうございます。コミュニティ・スクールとしての取り組みの 1 つとして、中根小安全ボランティア隊を発足し、子供の登下校の安全見守り活動を行います。

つきましては、ご協力いただきたく、下記のとおりご案内いたします。

記

1 地域安全パトロール

目黒区危機管理部生活安全課が所管する取り組みです。散歩の時間を子供の登下校時間に合わせたり、登下校の時間帯に自宅から近い通学路で子供を見守っていただいたりすることで、安全・安心に暮らせるまちの実現に努めていただくものです。

2 団体名

「中根小安全ボランティア隊」とします。

3 団体代表

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の委員である地域コーディネーターの方をお願いします。

4 加入対象

中根小の地域に住む方を対象とします。

5 活動内容

中根小の子供の登下校時、貸与される「防犯ベスト」を来て、子供と挨拶していただきます。学校は、登下校時に「防犯ベスト」を着用した方に挨拶するように指導します。

6 団体への加入方法

問い合わせ先にお電話ください。氏名、住所、電話番号をお伺いいたします。

7 保険について

加入者には傷害保険に入っていただきます。保険料は区が負担します。

8 申し込み締め切り 令和8年6月19日（金）

9 その他

登下校時間をお知らせするために、スマートフォンに連絡用アプリをインストールしていただきます。方法につきましては別途お知らせいたします。

10 防犯ベスト



（サイズは調節が可能です）

以 上

問い合わせ

副校長 白井 誠

3718-4506

中根小学校通学路図



地域で守ろう！子どもたちの未来

中根小安全ボランティア隊

メンバー募集のご案内

子どもたちの笑顔と安全のために、
あなたの力を貸してください！

おはよう
ございます！

いってらっしゃい！
気をつけてね！

中根小
安全ボランティア隊

横断中

地域安全パトロール

地域安全パトロール

活動内容

中根小の子どもたちの登下校時に、
貸与される「防犯ベスト」を着て、
子どもたちに挨拶や声かけ、
見守りをさせていただきます。

加入対象

中根小の地域にお住まいの方
(年齢・性別は問いません)

加入方法

下記問い合わせ先にお電話ください。
氏名・住所・電話番号を
お伺いいたします。

保険について

加入者には傷害保険に入っております。
保険料は目黒区が負担します。

その他

登下校時間をお知らせするために、
スマートフォンに連絡用アプリを
インストールしていただきます。
方法につきましては別途お知らせします。

防犯ベスト

目黒区から貸与されます。
(サイズは調節が可能です)



問い合わせ

目黒区立中根小学校

副校長 白井 誠

☎ 03-3718-4506



-10-

子どもたちの「おはよう！」が、
地域を元気にします。

令和 8 年 7 月 10 日

目黒区長 あて

住 所 東京都目黒区緑が丘1-1-1
名 称 目黒区立中根小学校
電 話 番 号 03(3718)4506
代 表 者 名 中根小安全ボランティア隊
北本美菜

目黒区地域安全パトロール団体加入申込書

目黒区地域安全パトロール団体に加入いたしたく、下記により申し込みいたします。

記

1. 活動場所 中根小学校 校区内
2. 活動方法 ボランティアによる見守り
3. 活動人数 85名 (別紙 名簿を添付してください。)
4. 活動内容

・児童の登下校時、挨拶や声かけ見守りを実施。

・防犯資器材として腕章を身につけ実施。

中根小学校安全ボランティア隊 協力者名簿

番号	お 名 前
1	小 林 節 子 様
2	榎 戸 広 子 様
3	鈴 木 啓 充 様
4	平 木 美 磋 子 様
5	北 本 美 菜 様
6	加 藤 佳 子 様
7	辰 巳 ヒロミ 様
8	福 永 雅 美 様

令和 8 年 9 月 26 日

保護者向け動画資料一覧

目黒区立中根小学校

「家庭学習における自己調整」

横浜国立大学 准教授 鈴木雅之先生

家庭学習における自己調整力の育成について理解をさらに深めるために、自己調整学習が専門の横浜国立大学の鈴木先生に動画を作成して頂きました。保護者の皆様に共有させていただきます。

学校だより 6 月号に掲載

(以下の二次元コードは、学校運営協議員の皆様向けの URL です。10 月 31 日（土）まで公開します。)



<https://youtu.be/sssVfoiYI00>

「自己調整学習を支える動機づけ

ー 子どものやる気をサポートするヒント ー

東京未来大学 准教授 小林寛子先生

家庭学習における自己調整力の育成について理解をさらに深めるために、東京未来大学モチベーション行動科学部の小林先生に動画を作成して頂きました。保護者の皆様に共有させていただきます。

学校だより 10 月号に掲載予定

(以下の二次元コードは、学校運営協議員の皆様向けの URL です。10 月 31 日（土）まで公開します。)



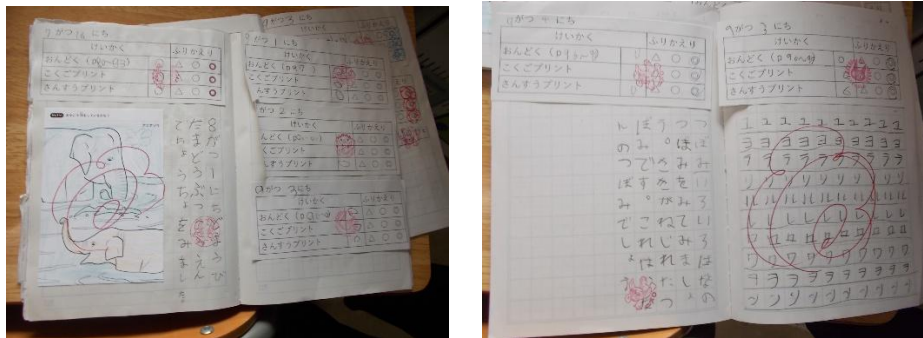
<https://youtu.be/rJJZF6kkmBk>

令和8年9月26日

家庭学習の理解啓発の事例

目黒区立中根小学校

【1年 家庭学習を習慣化するチェックリストの活用】



【2年 Home&school を活用した保護者への理解啓発】

学年
全体

自主学習について

主+副 (子ども対象外)

即時通知

日頃より自主学習に協力いただき、ありがとうございます。
す。回を重ねるごとに、取り組みに工夫が見られてきました。
いくつかの学習を紹介いたします。
今後の学習の参考にして頂ければ幸いです。

トップメニュー 一覧切替 重要 共通設定

学年
全体

自主学習について その2

主+副 (子ども対象外)

即時通知

日頃より、自主学習にご協力いただきありがとうございます。
自分の課題から学習内容を考えていることが伝わってき
ます。
自主学習では、振り返りも大切にしており、身につ
いてことを確認するもの、さらに、次回の学習につな
がるものになると良いと考えております。
ノートの最後に振り返りを1行書く欄があります。い
つもコメントを書いていただき、ありがとうございます。
ぜひ、お子さんと学習を振り返ることに活用ください。

トップメニュー 一覧切替 重要 共通設定

学年
全体

自主学習について その3

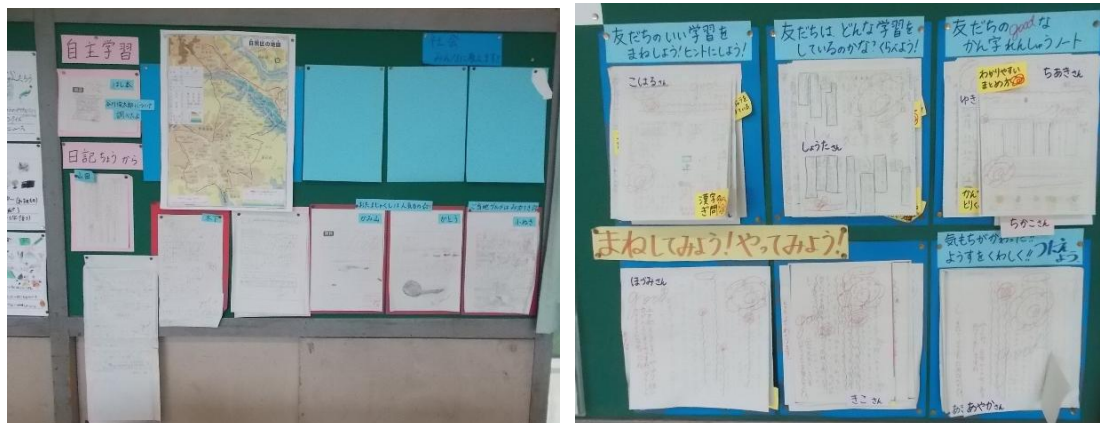
主+副 (子ども対象外)

日時指定通知 2026/07/17 16:00

いつもお世話になっております。日頃より自主学習に
ご協力いただき、ありがとうございます。
お家の方の丸つけや励まし・アドバイスの一言や問題作
りなどが、子供たちの意欲につながっています。
明日から夏休みに入ります。今までの自主学習をいか
し、一人一人の課題に合わせて学習に取り組んでほしい
と思います。
素敵な取り組みを添わせていただきました。ぜひご
覧ください。

トップメニュー 一覧切替 重要 共通設定

【3年 各教室の掲示による好事例の紹介】



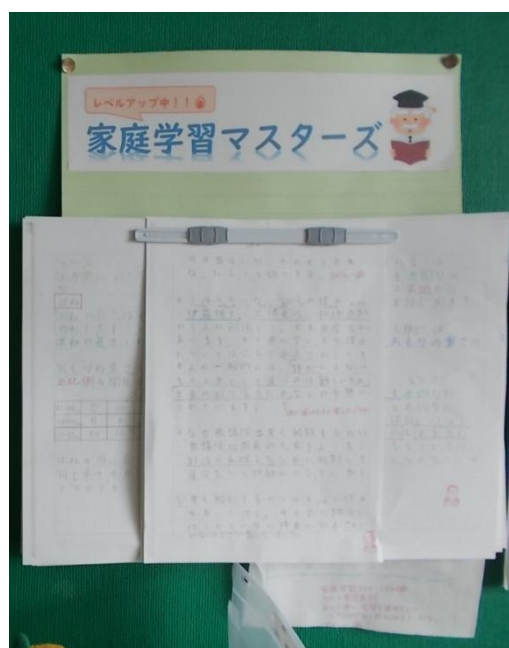
【4年 各教室の掲示による好事例の紹介】



【5年 各教室の掲示による好事例の紹介】



【6年 各教室の掲示による好事例の紹介】



令和8年度 学校評価アンケート一覧

カテゴリー	NO	保護者 n＝		地域 n＝		教職員 n＝		1～3年 n＝		4～6年 n＝	
学校の雰囲気	1	子どもたちの学校での様子は楽しそうである。 （独自）		子どもたちの学校での様子は楽しそうである。 （独自）		学校で子どもたちは、楽しく生活している。（独自）		がっこうは、たのしいですか。（独自）		学校は、楽しいですか。（独自）	
教職員の対応	2	教職員は、誠実に子どもたちや保護者に接している。		教職員は、誠実に子どもたち・保護者・地域の方に接している。		教職員は、誠実に子どもたち・保護者・地域の方に接している。		せんせいたちは、はなしをきいてくれますか。		先生たちは、あなたのことを考えて接してくれていると感じますか。	
保護者・地域の協力	3	学校と地域の連携は円滑に行えている。（独自）		学校と地域の連携は円滑に行えている。		学校と地域の連携は円滑に行えている。					
教育活動全体	4	学校の教育活動には満足している。		学校の教育活動は充実している。		学校の教育活動は充実している。		あなたは、なかねしゅがっこうがすきですか。		あなたは、中根小学校が好きですか。	
教育目標	5	学校の教育目標や指導の重点は、子どもたちや地域の実態に合った内容となっている。		学校の教育目標や指導の重点は、子どもたちや地域の実態に合った内容となっている。		学校の教育目標や指導の重点は、子どもや地域や実態に合った内容となっている。		あなたは、なかまとよくかんがえ、ねばりづよくべんきょうにとりくんでいますか。（独自）		あなたは、仲間と協力してよく考え、ねばり強く学習に取り組んでいますか。（独自）	
心の教育	6	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動を通して、命を大切にし、思いやりの心をもって生活する指導を行っている。		学校が、道徳授業地区公開講座などを通して、命を大切にし、思いやりの心をもって生活する指導を行っていることを知っている。（独自）		学校では、命を大切にし、思いやりの心をもって生活する指導に努めている。		あなたは、いのちや人のきもちをたいせつにしていますか。		あなたは、命を大切にし、思いやりの心をもって生活していますか。	
学習指導等	7	学校は、子どもたちの学力の定着・向上のために工夫した授業を行っている。				教職員は、子どもたちの学力の定着・向上のために主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行っている。		がっこうのがくしゅうは、わかりますか。		学校の学習は、わかりますか。	
情報端末の活用	8	子どもたちは学校で、学習用情報端末(タブレット)を活用して、学習に取り組んでいる。（独自）		子どもたちが学校で学習用情報端末（タブレット）を活用して学習に取り組んでいることを知っている。（独自）		教職員は、児童・生徒が学習用情報端末を活用する場面を意図的・計画的に設定している。（独自）		たぶれっとをがくしゅうでつかうことができていますか。（独自）		学習用情報端末（タブレット）を学習にいかすことができていますか。（独自）	
体育・健康教育	9	学校は、子どもたちの健康の促進に取り組んでいる。				学校は、子どもたちの体力向上を含めた健康の促進に取り組んでいる。		あなたは、がっこうでうんどうするなど、けんこうにきをつけたせいかつをしていますか。		あなたは、学校で運動するなど、健康に気を付けた生活をしていますか。	
行事・特別活動	10	学校は、学校行事や児童会活動・クラブ活動の充実に向け取り組んでいる。		学校は、学校行事や児童会活動、クラブ活動の充実に向け取り組んでいる。		学校は、学校行事や児童会活動、クラブ活動の充実に向け取り組んでいる。		うんどうかいやがくげいかいなどのぎょうじはたのしいですか。		運動会や学芸会などの行事や、児童会活動、クラブ活動は楽しいですか。	
学習・生活規律	11	子どもたちは、落ち着いて学校生活を送っている。（独自）		子どもたちは落ち着いて学校生活を送っている。（独自）		子どもたちは落ち着いて学校生活を送っている。（独自）		あなたは、がっこうでおちついてせいかつしていますか。（独自）		あなたは、学校で落ち着いて生活していますか。（独自）	
		子どもたちは、あいさつをしている。（独自）		子どもたちは、あいさつをしている。（独自）		子どもたちは、あいさつをしている。（独自）		あなたは、あいさつをしていますか。（独自）		あなたは、あいさつをしていますか。（独自）	
安全教育	12	学校は、災害に対する知識や、災害時に自分の安全を守るための対処の仕方などを身に付けさせるよう指導を行っている。		学校は、災害に対する知識や、自分の安全を守るための対処の仕方などを身に付けることができるよう指導に努めている。（独自）		学校は、災害に対する知識や、自分の安全を守るための対処の仕方などを身に付けることができるよう指導に努めている。		あなたは、じしんやかじがおきたら、じぶんでかんがえてみをまもることができますか。		あなたは、地震や火事が起きたら、自分で考えて身を守ることができますか。	
事件・事故等の防止	13	学校は、犯罪被害や交通事故を未然に防ぐために、具体的な取組(体験による学習など)を行っている。		学校は、事件や事故を未然に防ぐために、具体的な取組(体験による学習など)の充実に努めている。（独自）		学校は、事件や事故を未然に防ぐために、具体的な取組(体験による学習など)の充実に努めている。		あなたは、あんぜんについてのがくしゅうにしんけんにさんかしていますか。		あなたは安全についての学習に真剣に取り組んでいますか。	
幼・小・中連携教育	14	学校は、園と小学校、小学校と中学校のように異校種と関わる取組を行っている。				学校は、園と小学校、小学校と中学校のように異校種と連携を図り、子どもたちを育成しようとしている。					
情報の発信	15	学校は、教育活動の様子を分かりやすく伝えている。（独自）		学校は、教育活動の様子を分かりやすく伝えている。（独自）		学校は、保護者や地域の方に教育活動の様子を分かりやすく伝えている。（独自）					
教員の人材育成	16					学校は、日常的な職務を通して、教員の専門性と協働性及び教育公務員としての自覚を高める取組をしている。					
教員の働き方改革	17					学校は、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。					
服務事故の防止	18					学校は、日ごろから組織的に服務事故防止に努めている。					
	19										
	20										
	21										
研究開発	22	1～3年生「なかねっこタイム」、4～6年生「自己選択学習」の時間に、子どもたち一人ひとりの興味・関心や学習上の課題から学びを選択する活動に取り組んでいることを知っている。（独自）				自己選択学習では学習の意図を理解し、子どもたち一人ひとりに興味・関心や学習上の課題から学びを選択する活動に取り組ませている。（独自）		「なかねっこタイム」では、きょうみのあることや、まなんだことからえらんでとりくんでいますか。（独自）		自己選択学習では、興味・関心や学習上の課題から選択して学習活動に取り組んでいますか。（独自）	

文部科学省指定研究開発学校（R6-R8）の取組

1 取組内容（概要）

1 学びの質の向上

- ・ 自己選択学習の時間（個人探究）に取り組む。
- ・ 本を使って調べ、エッセイにまとめる。
- ・ 学校図書館の施設や蔵書の充実を図る。
- ・ 学習科学の知見に基づき授業改善を図る。

2 生活の質の向上

- ・ 家庭学習を通して自己調整力を育成するために「けテぶれ」に取り組む。
- ・ 学習補充時間で個に応じた指導を充実する。
- ・ 総合的な学習の時間における体験的な学習を夏季休業期間に実施する。
- ・ 地域図書館を訪問し、地域施設の活用意識を醸成する。

3 教員のための時間

- ・ 教育課程を精選し、すべての教員の時間外在校等時間を月 45 時間以内にすることを毎月達成する。

2 進捗報告

1 教員は放課後の時間をどのように活用しているか。（R7 回答が多い順）

- ・ 教材・教具の作成やプリントの印刷など授業の準備をした。
- ・ 担当している校務分掌の会議や、校務分掌で必要な事務作業をするための時間にした。
- ・ 関係する先生や講師、支援員、スクールカウンセラーなどと、受け持つ子供の情報などについてコミュニケーションをとった。
- ・ 掲示物や清掃など教室の環境整備をした。

2 時間外在校等時間が付き 45 時間以上であった教員の月別割合

表 時間外在校等時間が月 45 時間以上であった県費負担教員の月別割合【%】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R6	32	32	23	14	0	27	32	23	5	5	5	23
R7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R8	0	0	0	0	0							

3 教員がらくをして子供の学力が下がっているのではないか。

表 各教科のカラーテストの平均値の令和 6 年度と令和 7 年度の差

R7の学年		国語	算数	社会	理科	外国語
小6	R6	6.73	-0.76	11.09	4.10	9.50
	R7	9.46	5.00	12.87	5.94	10.27
小5	R6	6.70	6.03	7.41	7.65	
	R7	5.88	-0.02	8.35	5.64	
小4	R6	2.77	5.19	2.49	4.09	
	R7	6.77	4.51	8.11	6.06	
小3	R6	-3.85	-3.55			
	R7	-0.87	2.27			
小2	R6	12.64	10.87			
	R7	5.42	-2.51			

：有意に上昇

：有意に下降

3 今後の展開

次期学習指導要領（2030 年頃全面実施）では、総合的な学習の時間が総合的な探究の時間となり、プログラミング教育などを行う情報の領域が週 1 コマ程度新設される。

本校は東京科学大学に近接しており、理数教育を充実させたいと考えている。理数教育の充実とは、プログラミング教育を含めた STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) 教育であったり、理科学習内容を発展させたテーマ探究学習などを想定している。

その上で、理数科に強い教員の配置は欠かせない。現在、理数科の教員免許状を所有している教員は全教員の 5 パーセントである。そこで、コミュニティ・スクールの制度「教職員の任用に関する意見の申出」制度を活用し、別記第 8 号様式の通り、目黒区教育委員会宛てに学校運営協議会として意見を申出たい。

(参考)

Q5.「教職員の任用に関する意見」とは、どのような内容の意見でしょうか。

教職員の任用については、校・園長の経営ビジョンを後押しする視点から、学校教育目標に適った人材を求める意見を想定しています。協議会は、学校運営の基本的な方針を踏まえつつ、学校運営を充実していくために必要な教職員の人事について協議を行うことが大切です。

このため、校長は協議会に対して、必要に応じて校内体制の状況等(例:教職員数、年齢構成、正規職員と講師(非常勤)の割合、年度末退職・異動対象予定者数、現状の課題等)について説明し、共有しておくことが重要です。

なお、職員の採用その他任用に関する意見の扱いにおいては、協議会は校長と十分に意見を交わし、慎重に取り扱うように注意してください。

【意見の対象例】

①申出不可(例)

- ×現校長を異動させないでほしい
- ×■■■小学校の△△教諭を配置してほしい

②申出可(例)

- ICT 機器活用促進のため、ICT 機器の高い技能をもった教員を配置してほしい
- ユニバーサルデザインの授業に長けている教員を配置してほしい
- 地域と連携した教育について豊富な経験を持っている教員を配置してほしい

Q6.「教職員の任用に関する意見の申出」の取り扱いについて教えてください。

小・中学校の都費教職員の任命権者(都教育委員会)に意見を述べる場合、区教育委員会を経由して意見を述べることになります。この意見は、手続上、区教育委員会を経由して都教育委員会に提出されるものであり、この過程で内容が変更されるものではありません。



なお、「教職員の任用に関する意見書」に対する教育委員会からの回答はありません。教職員人事異動の新聞発表や次年度の「学校だより(教職員紹介)」により、回答に代えさせていただきます。

令和 8 年 9 月 26 日

目黒区教育委員会 宛て

目黒区立中根小学校
学校運営協議会
会長 山宮 順子

学校運営に関する意見申出書（案）

目黒区学校運営協議会規則第 8 条の規定に基づき、目黒区立中根小学校の学校運営について、下記のとおり意見を提出します。

記

本校は今年度よりコミュニティ・スクールとして認定を受け、地域とともにある学校づくりを推進している。学区内には東京科学大学が立地しており、これまでも児童の大学見学、大学教員や大学院生による出前授業、大学生による学習支援など、大学との連携を積極的に進めてきた。さらに今年度は、大学からの提案を受け、夏季休業期間中に学習補充教室を実施し、大学生が児童の学習支援に携わるなど、地域の教育資源を活用した取組を充実させている。

一方で、次期学習指導要領では、探究的な学びの充実や情報教育の強化が示されている。本校としても、東京科学大学との連携を生かし、プログラミング教育を含む STEM 教育や理科の学習内容を発展させた探究学習を推進し、科学的な思考力や課題解決力を育成したいと考えている。

そのためには、大学との連携を教育活動へ効果的に結び付けることのできる理数教育に専門性を有する教員の配置が必要である。専門性を有する教員は、児童への指導だけでなく、教員の授業改善や校内研修の推進役としても重要な役割を担う。しかしながら、本年度、理数教育の教員免許状を有する教員の割合は 1 名のみ（全体の 5 パーセント）である。

したがって、本校学校運営協議会は、「教職員の任用に関する意見の申出」に基づき、本校の地域特性及び学校経営方針を踏まえ、理数系分野、特に理科の教員免許状を保有している教員の複数配置（2 名以上）について配慮されるよう要望するものである。

第 2 回学校運営協議会（令和 8 年 9 月 26 日 9 時から、中根小学校さくらプレイルームにて）において決定

以 上

令和 8 年 9 月 26 日

私費会計額の推移

目黒区立中根小学校

学年	R3	R4	R5	R6	R7	R8 前期
1 年	10,967	11,500	12,500	16,373	18,000	10,000
2 年	7,280	6,700	6,552	10,500	10,500	4,000
3 年	13,100	14,000	15,000	15,500	16,700	7,000
4 年	12,000	10,500	10,000	13,000	12,500	10,000
5 年	11,000	11,000	25,000	27,000	17,000	15,000
6 年	26,500	25,000	22,000	32,500	31,500	16,000

単位：円

学校における補助教材及び学用品等に係る保護者等の負担軽減策の事例

※保護者に対する補助教材及び学用品等の費用支援の事例を除く

事例 1 保護者負担としていた教材等を学校備品として整備

(教科関係)

- 習字用具（墨のみ保護者負担。）や水書用具を学校備品として整備。
- 算数セット（おはじきや算数ブロック等の一部のみの整備を含む。）を学校備品として整備。
- 彫刻刀を学校備品として整備。
- 裁縫セット（裁ちばさみや竹尺等の一部のみの整備を含む。）を学校備品として整備。
- ものさし（30 センチ定規等の整備を含む。）を学校備品として整備。
- 画板や探検バッグを学校備品として整備。
- 栽培セットの土と苗を公費で整備。
- 鍵盤ハーモニカを学校備品として整備（保護者は、マウスピース・ホースを購入することも可。）。
- リコーダーの使用を見直し、新たにギターを学校備品として整備。
- カスタネットを学校備品として整備。
- 柔道着を学校備品として整備し、希望者に貸与。
- 辞典（国語辞典・漢字辞典等。）を学校備品として整備。
- そろばんを学校備品として整備。

(備品関係)

- 机の引き出しを学校備品として整備。
- 作品ホルダーを学校備品として整備。

事例 2 学校指定品の見直し等

- 制服を見直し、安価に購入できるように変更。
- 標準的な仕様に適合していれば、指定メーカー以外の市販品でも購入・使用できるように方針を変更。
- 体育館履きと上履きを統一。
※このほか、教室を土足可とすることで上履きを廃止している自治体もあります。
- 学校指定品を見直し、指定品の範囲を緩和。
- 指定品であった通学バッグを自由化。
- ランドセルの購入が必須でない旨を周知。
- 指定体育服の購入を取りやめた代わりに指定ビブスを購入させ、各自が用意した体育服の上から着用することとした。

事例3 制服や教材等の再利用

- 使用しなくなった算数セット、彫刻刀、画板等を、寄附を通して学校備品として再利用。
- 使用しなくなった制服・運動着の寄附を募り、再利用品として希望者に貸与。
- 入学記念品として、制服や運動着（自治体によって異なる。）を新入生に贈呈。

事例4 消耗品を学校で用意

- 個人所有だったテープ、のり、ボンド等を学校で整備したものを共用するように変更。

事例5 その他

- 公費負担する学用品の考え方を整理したガイドラインを作成し、公費で負担すべき学用品を拡大。
- 教育委員会から小中学校に対して、教材費の平均額を示すとともに、保護者の経済的負担を考慮する（お下がりやリサイクル品の活用の推奨など）旨を通知。

※設置者の所管する一部学校での取組も含む。
※提供いただいた情報を基に文部科学省で作成。